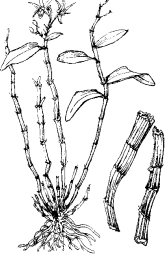


音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
せー17	せっこく 石斛	甘・微寒 肺・胃・腎	6～12g、鮮品は15～30g、煎服。
中医学学生薬解説、参考・使用上の注意 および中医学以外の生薬解説・生薬学解説			
中医生薬解説			
 <p data-bbox="373 617 592 647">ユウキセッコクの茎</p>		<p data-bbox="730 371 2007 439"><b>養胃生津・滋陰清熱</b> 熱病傷津の絳舌、少苔、強い口渇あるいは胃陰虚の消渴に、<b>生地黄・麦門冬・天花粉</b>などと用いる「清熱保津方」。</p> <p data-bbox="961 439 2007 507">陰虚内熱による微熱、身体の熱感、焦燥感などに、<b>生地黄・玄参・麦門冬・白薇・地骨皮</b>などと用いる「石斛湯」。</p> <p data-bbox="730 507 2007 575"><b>滋腎陰・明目強腰</b> 腎陰虚による視力減退、腰や膝がだるく無力などの症候に、<b>熟地黄・山薬・山茱萸・菟絲子・枸杞子</b>などと用いる「<b>石斛夜光丸</b>」。</p>	
	<p data-bbox="657 655 709 685">参考</p>	<p data-bbox="825 655 2007 685">石斛には新鮮品（<b>鮮石斛</b>）と乾燥品（<b>乾石斛</b>）があり、更に品種の違いがあるので、注意が必要である。</p> <p data-bbox="846 685 1734 715"><b>鮮石斛</b>は清熱生津の力が強いので熱病傷津に用い、一般の陰虚には<b>乾石斛</b>を用いる。</p> <p data-bbox="846 715 2007 834"><b>鉄皮石斛</b>は茎が円で外皮が鉄緑色を呈するもので、清熱生津に最もすぐれ、<b>金釵石斛（金石斛）</b>は茎が扁円で外皮が黄緑色を呈し、薬力がやや劣る。四川産の<b>川石斛</b>は養胃生津の力が弱く清熱が主であり、安徽省・雲南省の<b>霍山石斛</b>は寒性が弱く、老人や虚弱者の津虚に適し、高価である。</p> <p data-bbox="846 834 1755 863"><b>石斛</b>の嫩尖を加工したものが<b>耳環石斛</b>で、生津して寒涼でなく、茶の代わりに用いる。</p>	
<p data-bbox="657 872 804 902">使用上の注意</p>	<p data-bbox="825 872 1241 902">体堅質粘であり、先煎する必要がある。</p> <p data-bbox="825 902 1829 931">斂邪し邪の外達を妨げるので、温熱病で化燥がみられない場合には、早期に用いてはならない。</p> <p data-bbox="825 931 1524 961">助湿するので、化燥がみられなければ湿温、湿熱には禁忌である。</p>		